

# 区 勢 概 要

1963

横浜市金沢区役所

区制十五周年記念





☆ 目 次 ☆

発刊のことば	1
沿革および現況	2
行政	4
人口	6
教育	8
社会福祉	10
選挙	13
税務	14
保健衛生	15
交通	17
通信	19
警察	21
消防	22
産業	23
観光	32
公職者団体役員	35
行政機関	36

## 発 刊 の こ と ば



歳月の流れは「うたゝ夢のごとし」と云はれますが、早いもので本年は金沢区が磯子区より独立し区制を実施してから、満十五週年を迎えます。

その間幾多の変遷はありましたが、古い、輝かしい歴史の中に成長してきた金沢が、時代の進運とともに、従来の観光地から脱皮して、都市的な形態を整え、大横浜市の住宅地区、文教地区として一大発展をし、人口も毎年急激な増加をみていることは、往時をかえりみて誠に感慨深いものがあります。

併しながら私どもが、胸に描いております理想郷には程遠いものがあり、それでこそ更に一層の区の発展を期待することが出来るのであります。

このような時に、満十五周年のよき年を迎えることが出来たことは誠に喜びに堪えない次第であり、平素区政の実施に当り、一方ならぬ御協力を賜っております区民の皆様、このような区政の実態を正しく、わかりやすく知つて頂くために、もとよりその全貌を集録しえませんでした。ここに区勢概要を刊行いたしましたので、区民の皆様の御認識を願い、区政に対する御批判、御指導を賜ることが出来ますれば幸甚に存じます。

昭和 38 年 5 月 15 日

金 沢 区 長    山   田   道   成

## 沿革および現況

### 沿革

金沢区の歴史は、遠く3,000年乃至4,000年以前の縄文式文化時代から初まっていることは、当時の土器や各種石器獣骨等が発見されていることから知られる。平安時代には武蔵国久良または、久良岐郡<sup>ふく</sup>鮎浦として書物にあらわれた程度であつたが、建久2年源頼朝が鎌倉に幕府をひらいた前後から記録が明確になつた。これより先、寿永元年頼朝は熊谷直実を武蔵国の地領として管理させたが、当時は武蔵国海月郡又は武蔵国六連<sup>くらき</sup>などと呼ばれ、その後六浦荘<sup>むつら</sup>として正嘉2年倉城郡六連荘内「金沢村」として記録に残るようになった。この地は幕府の実権者北条一門の領地として重要視され、代々統治された。

仁治2年今の朝比奈街道が開さくされ、対岸の房総などの輸送の一基点として港が利用され、品川と並んで、現在の問屋の前身、問丸の所在地として、相模の経済上の中心地となつたのはこの頃である。

北条実時は、文永5年郡内に建立した称名寺に名僧を迎え、建治元年頃、金沢文庫を創設し当時の文教の地となしたことによつてその名を知られた。

文政10年頃の金沢は、青戸（当時の杉田村の一部）、富岡、谷津、泥亀新田、寺前、柴（小柴とも称す）、町屋、州崎（当時は野島村を含む）、社家分、寺分、平分、宿、坂本、赤井、峠（今の朝比奈、当時は相模国鎌倉郡に含まる）の15カ村に分れていた。

当時江戸文化の爛熟期には、文人墨客の来遊する者多く、安藤広重の風景画によつて、金沢八景の名は広く世に喧伝さたるに至つた。

明治2年6月、全国の諸藩版籍を奉還し、明治4年7月、廃藩置県の公布により、一時米倉丹後守の領地となつた六浦藩はそのまま六浦県となり、柴村は一時葦山県に属したが、同年11月全て神奈川県<sup>の</sup>管轄となつた。

明治8年には、六浦の社家分、寺分および平分の3分村が赤井、宿、坂本の3村を併合して釜利谷村と称し、明治22年4月町村分合改称令により、富岡、柴、谷津、泥亀新田、寺前、町屋、州崎および野島の8カ村を併合して金沢村となり3分村および釜利谷村も併合して六浦荘村となり、同時に峠村は再び分れて東鎌倉村に合併した。しかしその後明治30年5月峠村は六浦荘村に併合された。

明治期、横浜の外人に供給する西洋蔬菜の栽培、内湾の海苔養殖が行われたが、多年行われた製塩業は、明治41年専売法の施行によつて、廃せられるに至つた。

昭和5年湘南電気鉄道（現在の京浜急行）が開通し、横須賀を中心に軍需工業が発展するに伴い、来住者が増加し、昭和11年には、久良岐郡を廃し、金沢町六浦荘村は、横浜市磯子

区に編入、上水道が敷設された。昭和23年5月15日に至つて金沢区が独立し、以後10有余年を経た今日、四囲の立地条件に恵まれて、住宅地区、文教地区、観光地区として、将来の発展が期待されている。

## 現 況

金沢区は、横浜市の最南端に位置して横須賀市に接し、北西部で、磯子区、鎌倉市の山間部と連なり、東側は、東京湾に面する自然的環境に恵まれた気候温暖の地である。

第2次大戦終了迄は、東京湾要塞地帯としての指定地区内に在つたため、産業その他の発展は、他区に比して著しく遅れた状態にあつた。

又戦後も金沢区北部の富岡、長浜一带は駐留軍用地として引き続き接収されているため、発展の速度は阻害されている。

金沢区の現状の主な点を挙げれば3つある。

第1に土地に密着した産業面である。

当区は古くから湾内沿岸漁業と海苔養殖の盛んな所であるが、近時鶴見神奈川方面の海が、工場排水によつて汚染し、又根岸湾一带が埋立てられて海苔養殖場が全滅した現在、当区における海苔養殖場は、京浜地方における唯一の良質な海苔養殖場として重要な意味を有し、益々発展する方向にある。

一方沿岸漁業は、都市中心部に近い位置を占め、交通機関の発達を利して、鮮度の高い魚貝類を供給している。

当区は、旧海軍の施設の多い所であるが、戦後その跡に東急車輛その他の大工場が建設され、戦前からの工場と共に見事に平和産業へ転換している。

第2に挙げなければならないものに、急速に進められている住宅地の造成がある。

当区は、東京都へも至近な距離に在り、京浜急行その他交通機関の拡充整備は、都心への距離を一層近づけることになつたため、湘南地方に勝る絶好の住宅地として、大規模な宅地造成が進められ、最近一年余の間における区内人口は急激に増加するに至つた。

この傾向は未だ当分の間続く状態にあり、当区は、東京都及び本市中心部に対するベッドタウンとしての性格を強めて来ている。

第3には、最近益々その性格を強めて来た観光地としての問題である。

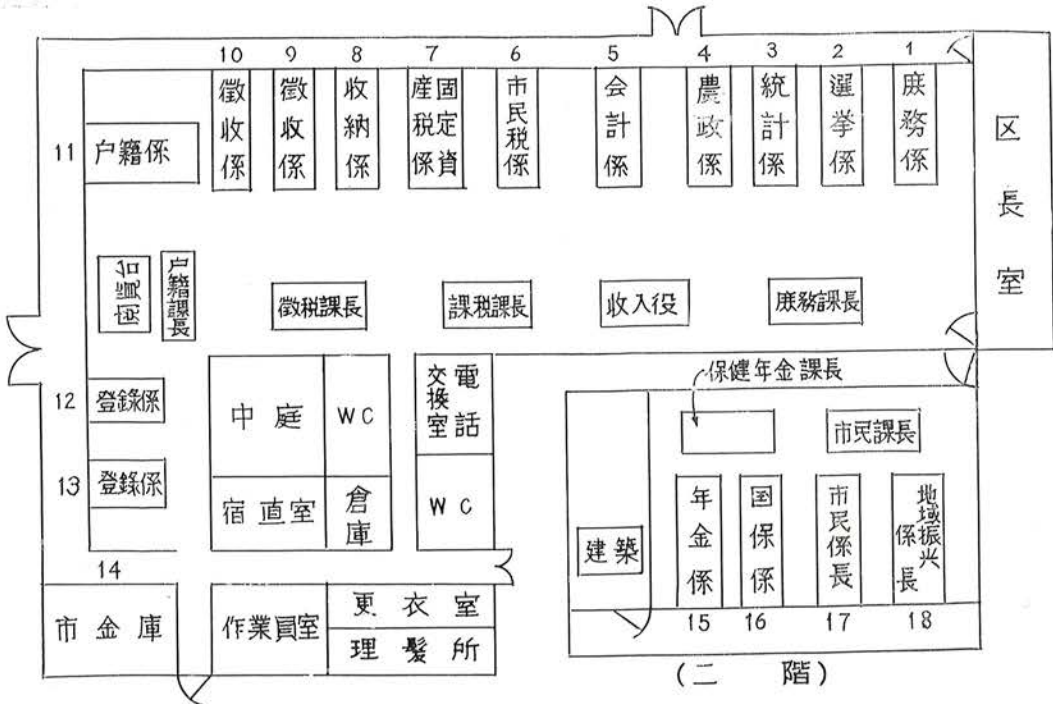
根岸湾の埋立てにより屏風ヶ浦、杉田海岸を失つた結果、京浜地区における唯一の海濱行楽地として、又称名寺、能見堂等の史跡に富む当区の特異な性格は、大資本の絶好の目標とされ、観光施設のための多くの資本が注ぎ込まれ、観光地としての性格を一層強めている。

# 政 行



区 役 所

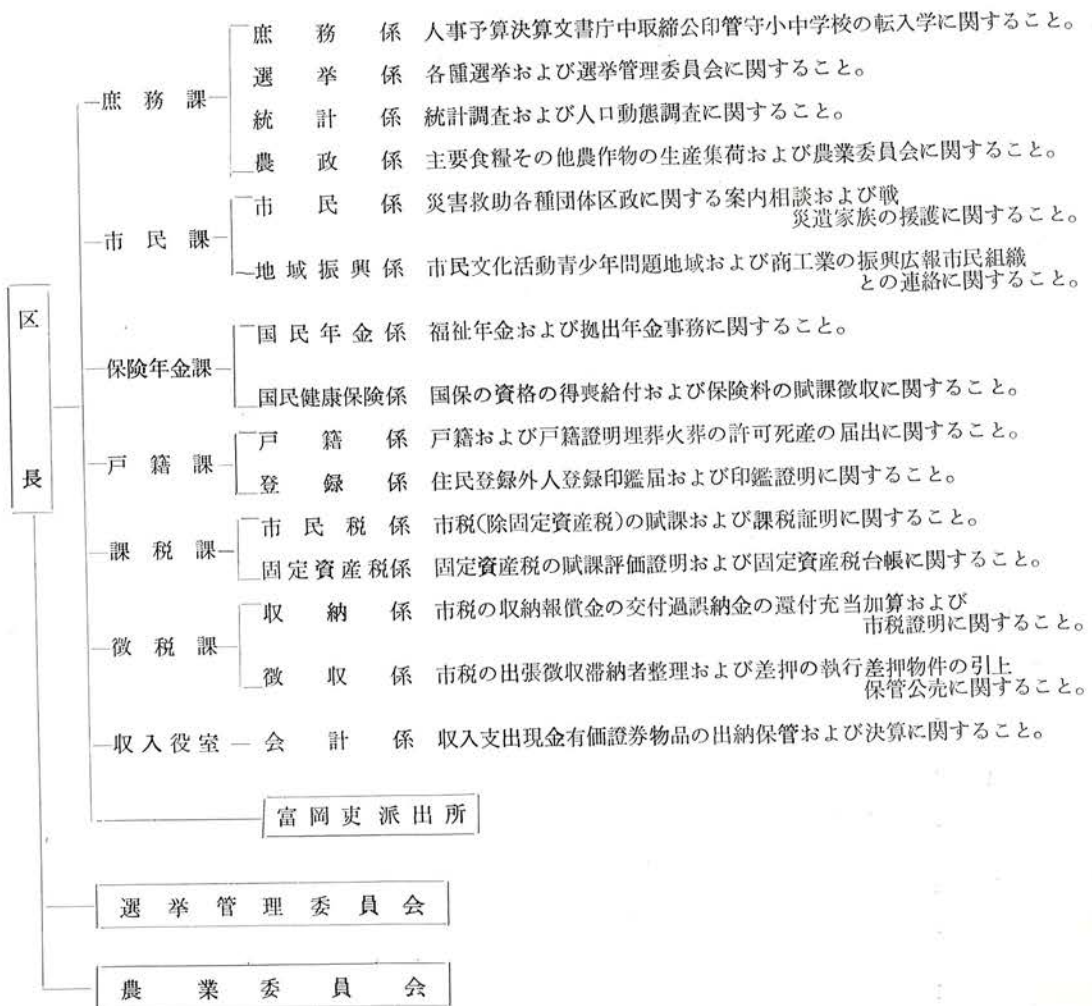
区 役 所 配 置 図



## 歴代区長

順位	区長名	就任年月日	退任年月日
1	渡辺 義雄	昭和23年5月15日	昭和26年9月10日
2	芹沢 勇	〃 26年9月10日	〃 28年1月24日
3	永堀 豊	〃 28年1月24日	〃 32年10月7日
4	新井 助太郎	〃 32年10月7日	〃 35年5月10日
5	山田 道成	〃 35年5月10日	

## 機構および事務分掌





人 口



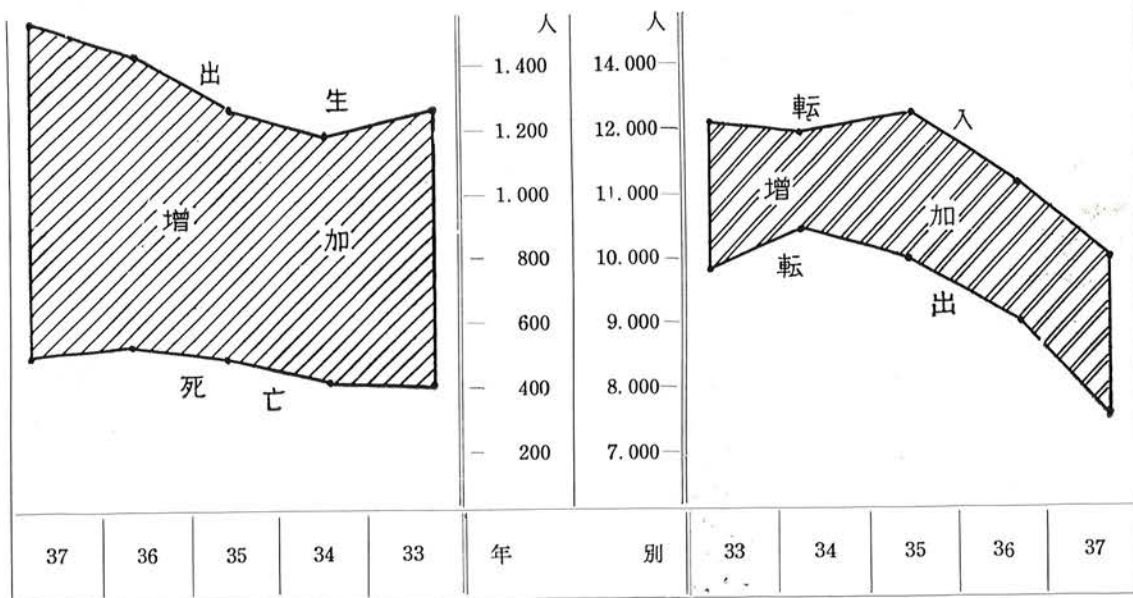
人口と世帯の推移

種別 年 別	世 帯 数	人 口			一 世 帯 当 り 人 口	備 考
		総 数	男	女		
昭和10年12月31日	2.785 <sup>世帯</sup>	14.151 <sup>人</sup>	7.408 <sup>人</sup>	6.743 <sup>人</sup>	5.08 <sup>人</sup>	推 計
〳 16年12月31日	6.860	39.727	24.101	15.626	5.79	〳
〳 20年12月31日	8.293	39.565	20.538	19.027	4.77	〳
〳 25年10月1日	14.783	56.040	28.215	27.825	3.79	国勢調査
〳 30年10月1日	14.266	63.974	32.622	31.352	4.48	〳
〳 33年1月1日	15.520	66.617	34.018	32.599	4.29	推 計
〳 35年10月1日	17.568	71.291	36.503	34.788	4.05	国勢調査
〳 36年10月1日	18.122	73.224	37.557	35.667	4.04	毎月人口調査
〳 37年10月1日	19.340	76.314	39.368	36.946	3.94	〳
〳 38年2月1日	19.727	77.149	39.806	37.343	3.91	〳

# 人口動態

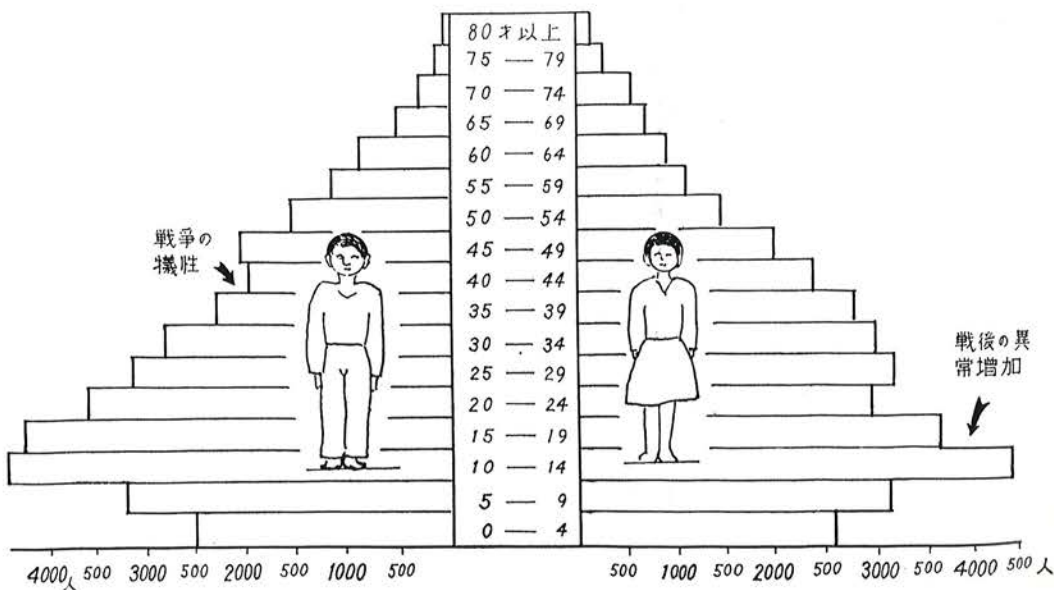
(自然増加)

(社会増加)



# ピラミッド型を描く人口

(昭和35. 10. 1. 現在)



# 教 育



授 業

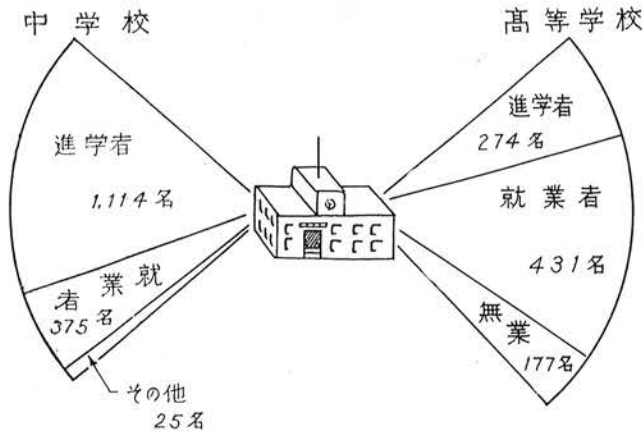
## 学校種別在籍児童生徒数

(昭 37.5.1 現在)

種 別	学校数	生 徒 数			教員数	学級数	一 学 級 平 均 数	一 校 当 り		
		総 数	男	女				教 員	生徒数	
総 数	31	25,493	17,416	8,077	1,178	—	—	38	822	
幼 稚 園	7	707	358	349	36	25	28.2	5.1	101	
小 学 校	公 立	8	7,236	3,762	3,474	197	168	43.1	24.6	904
	私 立	1	481	324	157	17	12	40.1	17	481
中 学 校	公 立	4	4,873	2,575	2,298	138	104	46.9	34.5	1,218
	私 立	2	883	720	163	57	17	51.9	28.5	441
高 等 学 校	公 立	1	931	533	398	41	20	46.5	41	931
	私 立	3	3,311	2,999	312	160	49	67.5	53.3	1,103
大 学	公 立	1	2,342	2,145	197	239	—	—	23.9	2,342
	私 立	1	4,027	3,969	58	236	—	—	23.6	4,027
短 期 大 学	1	513	31	482	50	9	53.3	50	513	
各 種 学 校	2	189	—	189	7	—	—	3.5	94	

# 卒業後の状況

(昭和 37 5 1 現在)



## 産業別就職状況 (高校)

(昭和 37 5 1 現在)

産業別	性別 総数	性別	
		男	女
総数	431人	317人	114人
農林狩猟業	—	—	—
漁業水産業	—	—	—
建設業	2	2	—
製造業	252	171	81
卸小売業	75	73	2
運輸通信公益事業	28	27	1
サービス業	12	10	2
公務	10	6	4
分類不能	5	5	—

## 小中学校生徒の平均単位

(昭 37 年)

年 令	性別	男				女			
		身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	坐高 cm	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	坐高 cm
小 学 校	6	113.5	19.5	56.3	64.0	112.3	18.9	54.7	63.5
	7	118.9	21.6	58.3	66.3	118.3	21.0	56.7	66.0
	8	123.8	23.9	60.1	68.9	123.2	23.2	58.1	68.6
	9	128.9	26.1	62.2	71.2	128.5	25.8	60.5	71.3
	10	133.7	28.9	64.0	73.2	134.4	29.2	62.9	73.9
中 学 校	11	138.9	31.5	66.4	75.3	140.9	33.5	66.5	77.1
	12	144.5	35.9	70.5	78.3	146.9	39.0	70.9	80.5
	13	151.5	41.8	72.3	81.7	150.6	43.4	73.4	83.4
	14	157.2	46.6	76.0	84.6	152.6	46.4	75.9	84.5

# 社 会 福 祉



ク リ ス マ ス 慰 問

## 保 護 費 の 推 移

年 度	金 額
昭和 3 2 年 度	46,947,115 <small>円</small>
〃 3 3 〃	52,205,520
〃 3 4 〃	58,571,773
〃 3 5 〃	59,820,473
〃 3 6 〃	57,794,316

## 生 活 保 護 法 に よ る 扶 助 の 状 況

(昭 和 3 6 年 度)

種 別	扶 助 の 状 況				
	世 帯	人 員	金 額	1 世帯当り	1 人当り
総 額	世帯	人 員	人 円	円	円
総 額	2.072	2.763	57,794.316	53.912	20.917
生 活 扶 助	368	1.205	22,745.614	61.808	18.876
住 宅 扶 助	184	744	2,307.963	12.543	3.102
教 育 扶 助	199	454	2,833.957	14.240	6.242
医 療 扶 助	287	325	29,771.835	103.734	91.605
出 産 扶 助	4	4	19.000	4.750	4.750
生 業 扶 助	20	21	50.020	2.501	2.381
葬 祭 扶 助	10	10	65.927	6.592	6.592

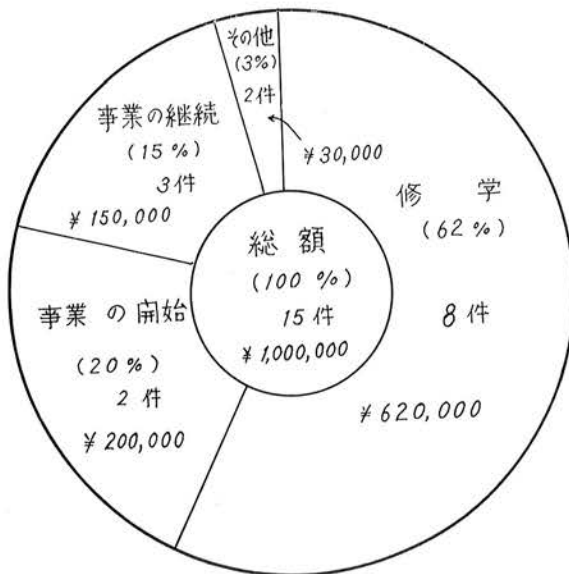
# 社会事業団体施設一覽

(昭和 38. 1. 1 現在)

名 称	収 容 人 員			代 表 者	施 設 種 別	経 営 主 体	住 所
	総 数	男	女				
総 数	418人	195人	223人				
恵風母子寮	39	12	27	横浜市長	児童福祉施設	横浜市同胞会	富岡町 2116
金沢母子寮	53	17	36	田頭晴弥	〃	県同援護会	朝比奈町 455
さくら保育園	54	25	29	横浜市長	〃	横浜市同胞会	泥亀町 35
金沢愛児園	120	61	59	田頭晴弥	〃	県同援護会	町屋町 104
白梅保育園	92	47	45	小泉金助	〃	個人	六浦町 1650
金沢保育園	9	5	4	永田智恵子	〃	〃	金沢町 149
六浦保育園	15	11	4	六浦正隆	〃	宗教法人	六浦町 3774
富岡学園	36	17	19	横浜市長	養護施設	横浜市	富岡町 2095

## 母子福祉資金貸付状況

(昭和 36 年度)



## 各種募金の状況

年度	区分	目 標 額		募 金 額	
		円	円	円	円
日赤募金	昭和35年度	762,700	780,188		
	〃 36 〃	741,300	778,365		
	〃 37 〃	820,100	861,105		
日赤奉仕団	昭和35年度	227,000	141,005		
	〃 36 〃	259,500	211,058		
	〃 37 〃	269,500	265,434		
共同募金	昭和35年度	1,171,218	1,319,633		
	〃 36 〃	1,171,278	1,382,353		
	〃 37 〃	1,339,820	1,388,000		

## 国民年金の加入状況

(昭和 37.4.1 現在)

区分	人口	加入届受付状況			
		強制	任意	計	総人口比
金沢区	74,094人	5,387人	3,786人	9,173人	12.4%
横浜市	1,483,130	107,388	40,453	147,841	10.0

## 福祉年金の受給権者数

(昭和 37.4.1 現在)

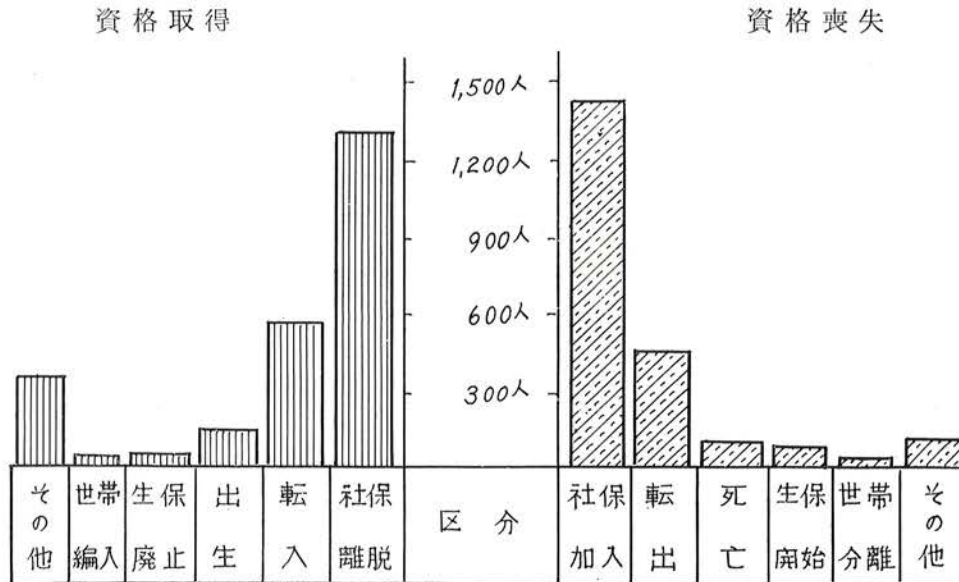
区分	老令	障害	母子	計
金沢区	1,056人	71人	95人	1,222人
横浜市	17,555	1,137	1,319	20,011

## 国民健康保険の加入状況

(昭和 37.4.1 現在)

区分	世帯	人口	被保険者		
			世帯	人口	総人口比
金沢区	18,532	74,094人	4,140人	12,124人	16.4%
横浜市	381,379	1,483,130	96,273	287,341	19.3

## 被保険者資格異動状況



# 選 挙

## 基本選選人名簿登載者数

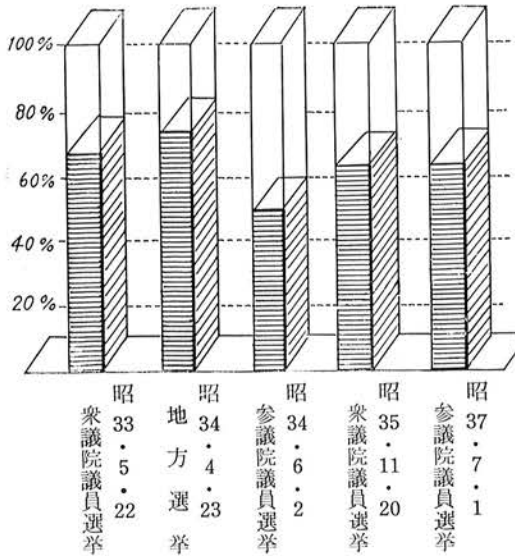
(昭和 37.12.20 現在)

開票区	総数	男	女	投票区	総数	男	女
	人	人	人		人	人	人
1	24,123	12,291	11,832	1	6,390	3,232	3,158
				2	4,530	2,376	2,154
				3	6,047	3,072	2,975
				4	2,314	1,163	1,151
				5	4,842	2,448	2,394
2	23,819	12,103	11,716	6	4,803	2,585	2,218
				7	3,178	1,647	1,531
				8	5,245	2,588	2,657
				9	5,809	2,889	2,920
				10	4,784	2,394	2,390

## 農業および漁業委員会選挙人名簿登載者数

(昭 37.12.20)

### 投票率の比較



積別	総数	男	女
農業委員会	1,015	496	519
海区漁業調整委員会	(2)		(2)
委員会	1,156	565	591

( ) 内は法人数を示す

## 基本選挙人名簿の推移

(各年 12月 20日 現在)

年 別	総数	男	女
昭和 33 年	40,428	20,426	20,002
〃 34 〃	41,524	20,908	20,616
〃 35 〃	43,553	21,812	21,741
〃 36 〃	45,593	23,114	22,479
〃 37 〃	47,942	24,394	23,548



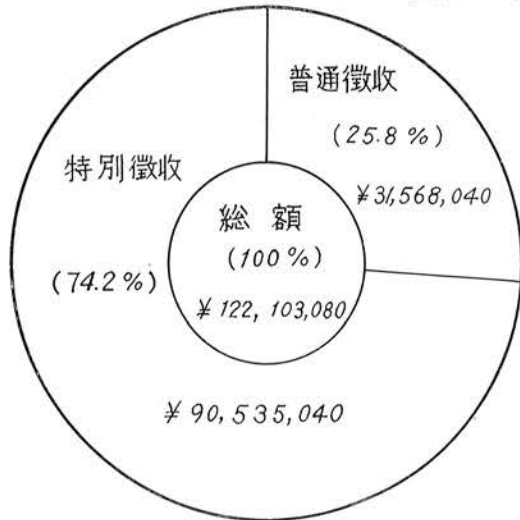
# 税 務

## 昭和36年度市税収納状況

種 目	調 定 額		収 入 額		収 入 率
	件 数	税 額	件 数	税 額	
総 額	137,005	283,975,008	121,035	271,594,367	95.6
市 県 民 税	34,040	88,221,683	26,620	81,915,234	92.9
固 定 資 産 税	49,977	129,051,981	45,897	124,449,853	96.4
市たばこ消費税	12	22,703,950	12	22,703,950	100.0
都 市 計 画 税	48,906	13,983,280	45,116	13,441,395	96.1
そ の 他	4,070	30,011,114	3,390	29,033,935	96.9

### 市民税種類別賦課額

(昭和37年)



### 市県民税課税標準額納税者数

(昭和37年)

区 分	納 税 者 数
10万円以下	6,139人
20万円	4,416
50万円	3,511
100万円	575
150万円	130
250万円	46
400万円	14
600万円	3
計	14,834

### 土地家屋の面積および評価額

(昭37.1.1現在)

土 地				家 屋				
種 別	筆 致	地 積	評 価 額	種 別	棟 数	床 面 積	評 価 額	
	筆	反	千円		棟	坪	千円	
田	2,638	778	30,475	木 造	住 家	15,238	3,322,674	
畑	3,142	1,156	33,124		店 舗	275	248,782	
宅 地	11,024	1,076,367坪	1,565,126		工 場	437	174,882	
池 沼	14		4		倉 庫	169	55,950	
山 林	4,644	10,114反	140,176		雜種家屋	3,556	86,618	
原 野	73	80	1,316		非 木 造	住 家	56	300,823
軌道用地	863	169	33,575			店 舗	32	268,679
雜 種 地	1,031	466	8,704	工 場		155	1,482,639	
				倉 庫		92	30,444	
計	23,429	12,763反 1,076,367坪	1,812,500	計	20,010	299,222	5,971,491	

# 保 健 衛 生



乳 幼 児 相 談

## 保 健 所 の 活 動 状 況

### 個 別 健 康 相 談

年 度	成人病相談	結核相談	妊産婦相談	乳幼児相談
昭和 36 年	1,425	4,162	889	4,350
37 年	1,946	4,209	894	3,744

### 予 防 接 種

年 度	痘 そ う	ジフテリア 百日咳混合	ジフテリア	腸チブス パラチフス 混 合	小児麻痺	日本脳炎	インフル エンザー
昭和 36 年	7,809 <sup>人</sup>	3,193 <sup>人</sup>	4,097 <sup>人</sup>	3,342 <sup>人</sup>	6,053 <sup>人</sup>	6,847 <sup>人</sup>	
37 年	2,723	2,971	1,570	4,037	2,276	9,717	3,369

### 結 核 検 診

年 度	ツベルクリン		B C G		X 線 間 接		X 線 直 接		発 見 者 数
	集 団	個 別	集 団	個 別	集 団	個 別	集 団	個 別	
昭和 36 年	1,316 <sup>人</sup>	254 <sup>人</sup>	588 <sup>人</sup>	111 <sup>人</sup>	30,974 <sup>人</sup>	1,820 <sup>人</sup>	414 <sup>人</sup>	449 <sup>人</sup>	38
昭和 37 年	1,667	407	783	290	27,701	2,072	347	429	12

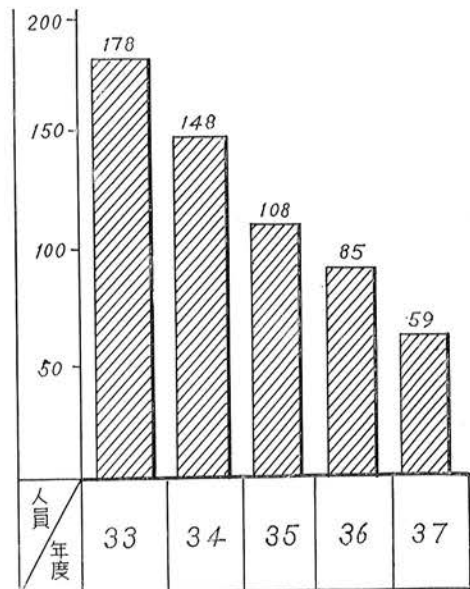
# 年次別10大主要死因

区 分	昭和33年		昭和34年		昭和35年		昭和36年	
	死 因	死者数	死 因	死者数	死 因	死者数	死 因	死者数
第1位	脳出血	70人	脳出血	77人	脳出血	116人	脳出血	80人
2	悪性新生物	41	心臓病	51	悪性新生物	57	悪性新生物	63
3	心臓病	41	悪性新生物	47	心臓病	44	心臓病	51
4	全結核	27	全結核	31	不慮の事故	32	不慮の事故	34
5	不慮の事故	25	不慮の事故	30	肺炎	16	肺炎	16
6	自殺および自傷	17	肺炎	26	全結核	14	老 衰	15
7	肺炎	15	腎炎およびネフローゼ	13	胃炎 十二指腸炎 腸炎大腸炎	11	腎炎およびネフローゼ	14
8	腎炎およびネフローゼ	13	自殺および自傷	13	腎炎およびネフローゼ	10	自殺および自傷	12
9	老 衰	11	新生児固有疾患 性不明の未熟児	11	診断不明確 および不明の 原因	10	診断不明確 および不明の 原因	12
10	胃炎十二指腸炎 腸炎大腸炎	11	胃炎十二指腸炎 腸炎および大腸炎	10	新生児固有疾患 性質不明の未熟児	9	全結核	11



防 疫

## 法定伝染病の発生状況



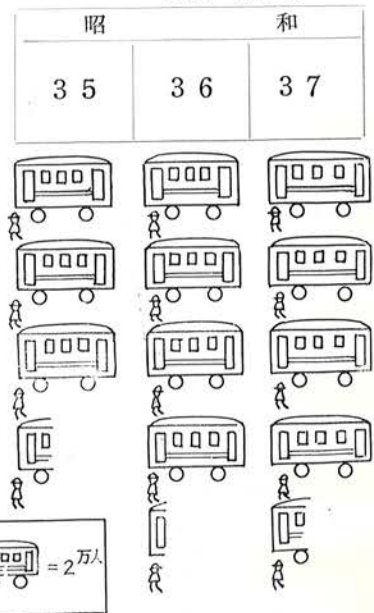
# 交 通



各 駅 乗 降 人 員 (1日平均) (昭和 37 年)

種 別 駅 名	乗 車 人 員		降 車 人 員	
	定 期 外	定 期	定 期 外	定 期
富 岡 駅	1,266	2,524	1,166	2,524
谷 津 坂 駅	587	2,898	788	2,898
文 庫 駅	3,562	8,198	3,661	8,198
八 景 駅	4,147	12,530	4,247	12,530
六 浦 駅	1,421	4,453	1,571	4,453
計	10,983	30,603	11,433	30,603

乗 降 人 員 の 推 移 (年間1日平均)



### 交通事故の発生状況

(昭 37 年)

種 別	件 数
総 数	431
自 動 車	380
電 車	1
自 転 車	47
そ の 他	3



### 国道16号線交通量

(金沢警察署前)

(昭 36.11.21.現在)

種 別	上	下	時 間	上	下	
総 数	5,139 <sup>台</sup>	5,333 <sup>台</sup>	総 数	5,139	5,333	
自 大 動 車 型	バ ス	173	198	8 時 — 9 時	388	425
	ト ラ ッ ク	658	643	9 時 — 10 時	479	556
自 普 動 車 通	乗 用 車	1,219	1,063	10 時 — 11 時	538	709
	ト ラ ッ ク	1,538	1,693	11 時 — 12 時	531	659
特 殊 自 動 車	107	130	12 時 — 13 時	459	548	
軽 四 輪 車	232	244	13 時 — 14 時	614	590	
軽 三 輪 車	249	351	14 時 — 15 時	649	627	
単 車	597	628	15 時 — 16 時	729	687	
自 動 三 輪 車	366	383	16 時 — 17 時	752	532	

通 信



郵便施設数

(昭和 38 1. 1. 現在)

名 称	普 通 局	特 定 局	切 手 売 捌 所	ポ ス ト
数	1	10	58	72

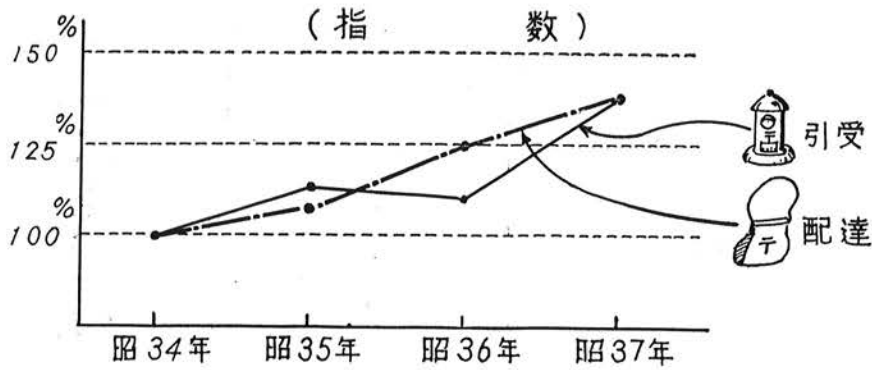
郵便物取扱件数

(昭和 37 年)

種 別	引 受		配 達	
	通 常	小 包	通 常	小 包
普通郵便	(2,423,606) 5,508,196	17,712	6,719,999	(45,150) 99,548
年賀郵便	(763,432) 1,729,663		2,103,705	
書留郵便	80,435	3,116	220,012	(13,663) 30,326
速達郵便	(32,692) 89,057	1,270	216,603	(4,635) 9,728
速達書留	5,834	376	23,611	(1,878) 3,600

数字は磯子局取扱数 ( ) 内は金沢分室取扱数再掲

# 内国郵便の推移



## 為替貯金等取扱数

(昭和37年)

種別	区分	受 入		払 出	
		件 数	金 額	件 数	金 額
通積	常立	36,337	174,614,211	12,949	173,082,195
定額	替	4,342	113,985,206	3,484	108,637,966
為替	替	977	12,298,866	3,363	69,173,896
振保	替	3,641	33,561,449	1,149	16,340,670
年	險	523,534	295,399,723	1,598	31,985,616
	金	1,984	2,549,992	156	767,378

## 電報取扱通数

## 電話加入状況

(各年3月末日現在)

種別	発 信	着 信	中継信	合 計
昭35年	(30) 5,716	(143) 34,490	153	40,359
〃 36 〃	(20) 6,464	(192) 39,135	177	45,776
〃 37 〃	(21) 3,404	(112) 25,114	114	28,632

種別	加入電話	公電	衆話	比 率 (電話加入)
昭35年	1,684		73	100%
〃 36 〃	1,829		102	109
〃 37 〃	2,653		110	155

註 37年度は11月末日現在数を( )内は外国電報を別掲する

警 察



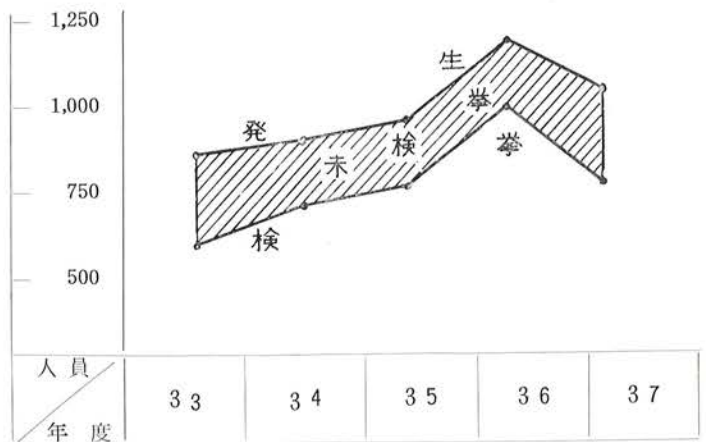
金 沢 警 察 署

刑法犯発生検挙の状況

(昭和37年)

種 別	発 生	検 挙
殺 人	2	3
強 盗	5	5
強 姦	2	2
窃 盗	656	422
傷 害	56	47
恐 喝	24	21
詐 欺	55	43
横 領	6	5
わいせつ	6	6
そ の 他	203	201
計	1,015	755

刑法犯発生検挙の推移

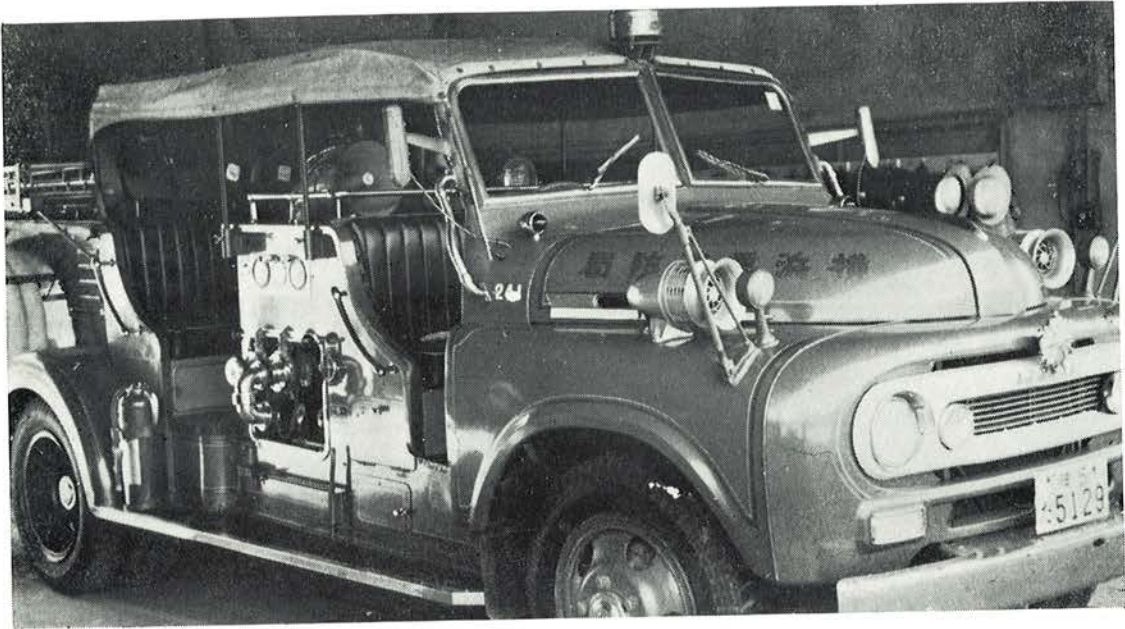


少年補導の状況

種 別	学 生				有職者	無職者	計
	小学生	中学生	高校生	計			
昭和 36 年	177人	412人	177人	766人	809人	181人	1,756人
昭和 37 年	180人	416人	144人	740人	538人	287人	1,565人



# 消 防

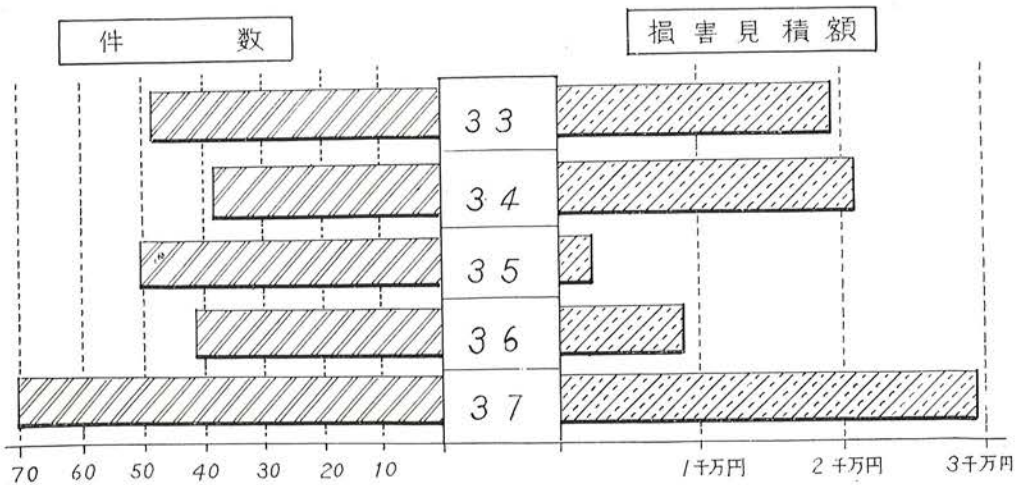


## 原因別火災状況

(昭和37.12.1現在)

原因別	煙草	弄火	放火	石油 こんろ	焚火	煙突	電热器	炭火	かまど	石油 ストーブ	その他	計
件数	11	12	5	3	11	3	2	2	2	1	18	70

## 年別火災状況



# 産 業



す ざ ら ん 通 り

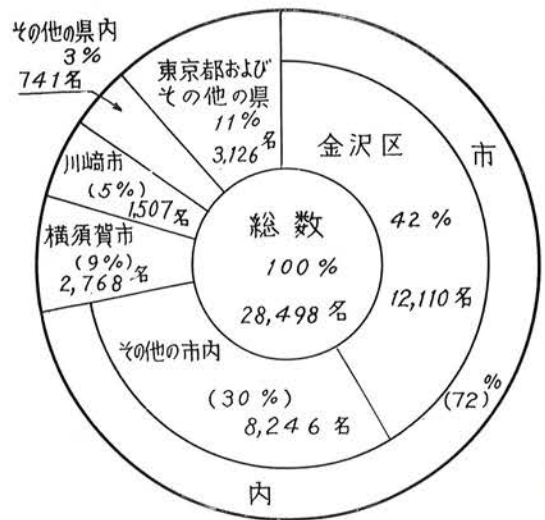
## 産業別事業所および就業者数

(昭 35.7.1 現在)

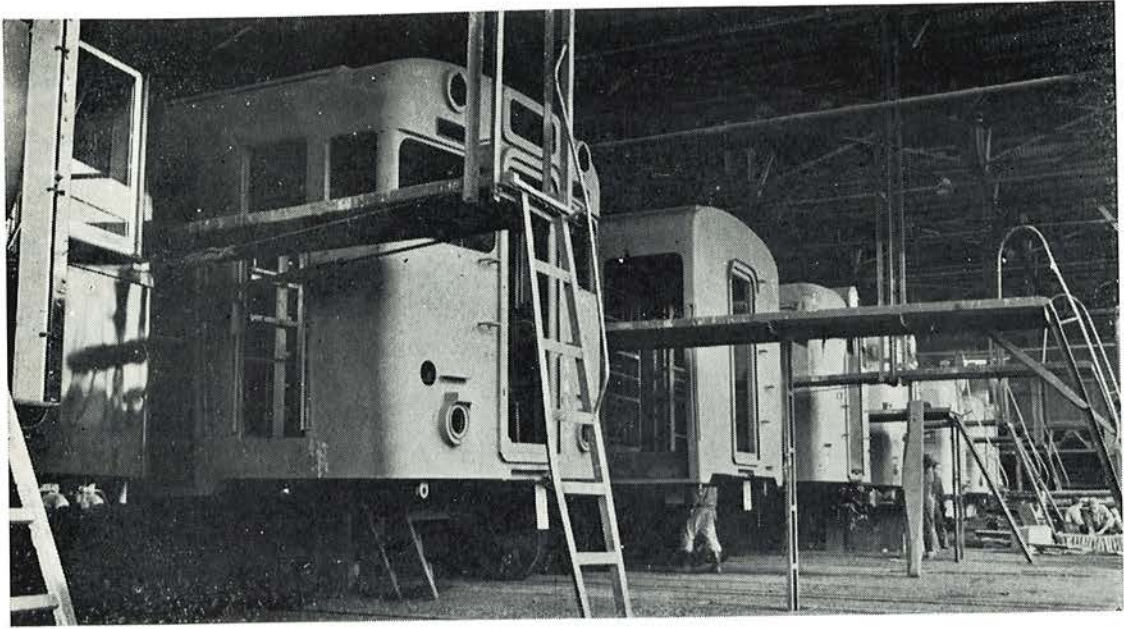
産 業 別	事業所数	就業者数
総 数	1,778	14,953 人
鉱 業	1	x
建 設 業	59	835
製 造 業	124	6,923
卸売および小売業	1,011	2,741
金融および保険業	28	189
不 動 産 業	20	30
運 輸 通 信 業	25	755
電 気 ガ ス 水 道 業	7	27
サ ー ビ ス 業	503	3,453

## 就業地別就業者数

(昭 35.10.1 現在)



# 工 業



工 業 の 状 況 (除 飲 食 店) (昭 36. 12. 31 現在)  
(4人以上の事業所)

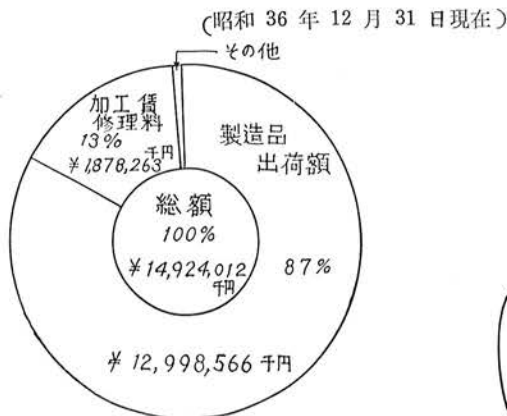
産 業 別	事業所数	経 営 組 織 別		従 業 者 数				製 造 品 出 荷 額 等 千円
		個 人	法 人	総 数	職 員	労 務 者	個 人 事 業 主	
総 数	90	12	78	7,753	2,060	5,674	19	14,924,062
食 料 品	16	3	13	162	37	120	5	174,216
織 維	2	—	2	181	38	143	—	91,082
衣 服	3	1	2	40	1	37	2	27,250
木 材	3	—	3	74	13	61	—	186,634
家 具	6	1	5	89	12	76	1	57,390
出 販	4	—	4	89	18	71	—	83,187
化 学	2	—	2	404	41	363	—	221,047
石 油	1	—	1	x	x	x	—	x
鉄 鋼	1	—	1	x	x	x	—	x
金 属	10	2	8	475	66	406	3	593,958
機 械	16	1	15	2,721	978	1,741	2	6,935,818
電 機	4	1	3	139	29	108	2	118,620
輸 送 機	16	2	14	3,071	760	2,308	3	5,996,793
精 機	2	—	2	x	x	x	—	x
そ の 他	4	1	3	308	67	240	1	438,067

# 事業所数 従業者数の推移

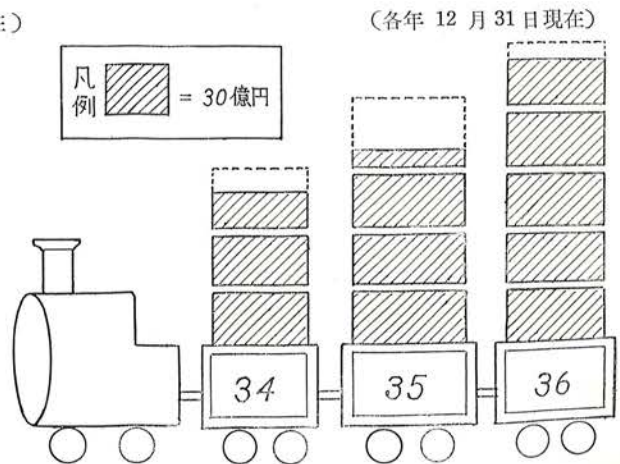
(4人以上の事業所) (各年12月31日現在)

産 業 別	昭 和 3 4 年		昭 和 3 5 年		昭 和 3 6 年	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総 数	71	5,215 <sup>人</sup>	81	6,560 <sup>人</sup>	90	7,753 <sup>人</sup>
食 料 品	16	151	14	156	16	162
織 維	3	63	3	60	2	181
衣 服	2	x	2	175	3	40
木 材	4	69	3	58	3	74
家 具	6	322	9	519	6	89
出 版	3	81	4	83	4	89
化 学	1	x	2	x	2	404
石 油	1	x	1	x	1	x
鉄 鋼	1	x	1	141	1	x
非 鉄 金 属	1	x	—	—	—	—
金 属	4	191	14	709	10	475
機 械	12	1,876	12	2,297	16	2,721
電 機	—	—	2	x	4	139
輸 送 機	16	2,242	10	2,362	6	3,071
精 機	1	220	3	x	2	x
そ の 他	—	—	1	x	4	308

## 工業生産額の内訳



## 伸びる工業生産額



# 商 業



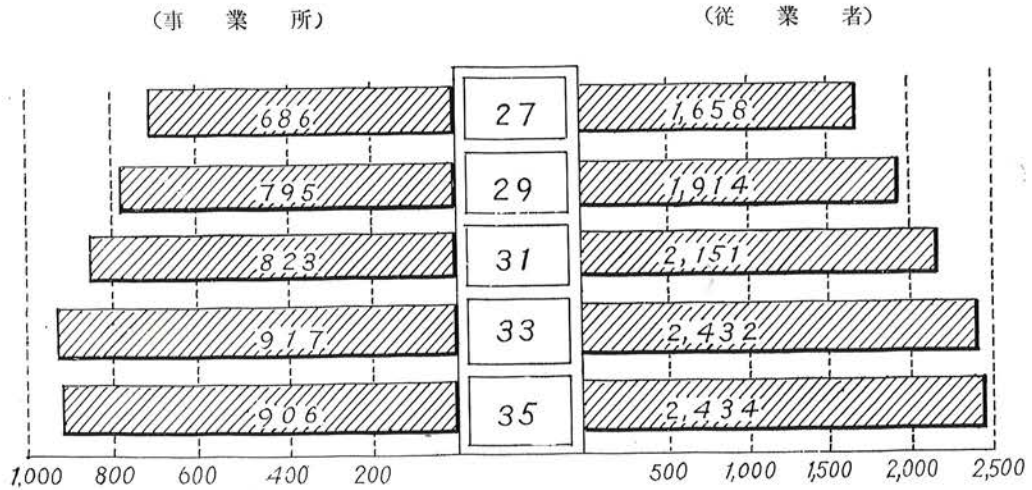
## 商業の状況 (除飲食店)

(昭 35 7 1 現在)

業 種 別	店 舗 数 総	経営組織別		常 用 勞 働 者				売 場 面 積	年 間 販 売 額
		法 人	個 人	総 数	家 族	有 給 役 員	常 用 勞 働 者		
数 総	906	226	680	2,434	1,160	297	977	16,123 <sup>m<sup>2</sup></sup>	3,953,171 <sup>千円</sup>
卸 売 業	66	35	31	280	55	51	174	1,002	1,131,640
小 売 業	840	191	649	2,154	1,105	246	803	15,121	2,821,531
織 物 衣 服	106	22	84	242	143	27	72	1,837	258,337
飲 食 料 品	496	128	368	1,228	668	154	406	9,186	1,923,578
自 転 車 荷 車	15	2	13	24	13	2	9	286	22,286
家 具 建 物 什 器	74	18	56	178	87	32	59	1,484	185,555
医 薬 化 粧 品	29	11	18	86	28	15	43	721	130,964
農 耕 用 品	6	1	5	13	9		4	84	11,661
書 籍 文 具	35	2	33	233	50	2	181	664	113,785
燃 料 其 他	17	3	14	41	21	5	15	258	73,278
他 に 分 類 さ れ な	62	4	58	109	86	9	14	601	102,087

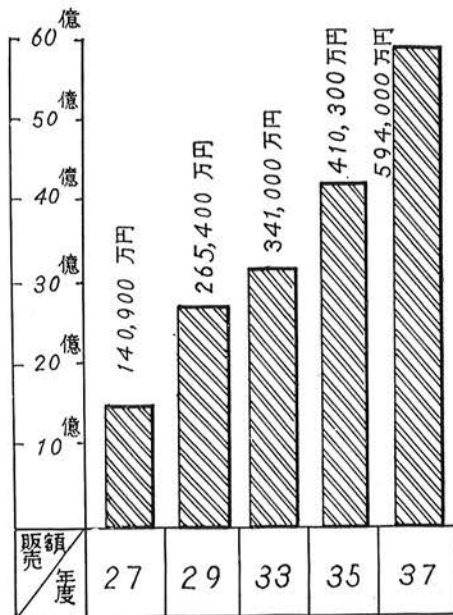
事業所従業者数の推移 (除飲食店)

(各年7月1日現在)



伸びる年間販売額

(各年7月1日現在)



販売額別商業の状況

(昭和35 7 1 現在)

販売額別 ( sales volume category )	店舗数 ( number of establishments )
総数 ( total )	906
30万円未満 ( under 300,000 yen )	100
30万 — 49万 ( 300,000 — 490,000 yen )	74
50万 — 99万 ( 500,000 — 990,000 yen )	132
100万 — 249万 ( 1,000,000 — 2,490,000 yen )	239
250万 — 499万 ( 2,500,000 — 4,990,000 yen )	162
500万 — 999万 ( 5,000,000 — 9,990,000 yen )	102
1千万 — 4999万 ( 10,000,000 — 49,990,000 yen )	90
5千万 — 9999万 ( 50,000,000 — 99,990,000 yen )	5
1億以上 ( 100,000,000 yen and over )	2

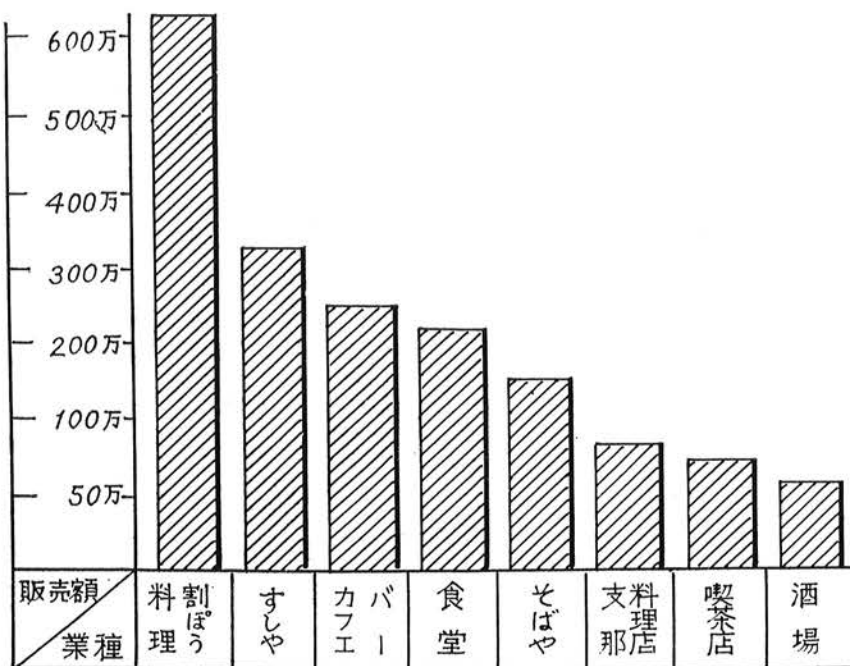
# 飲食店の状況

(昭 35. 7. 1 現在)

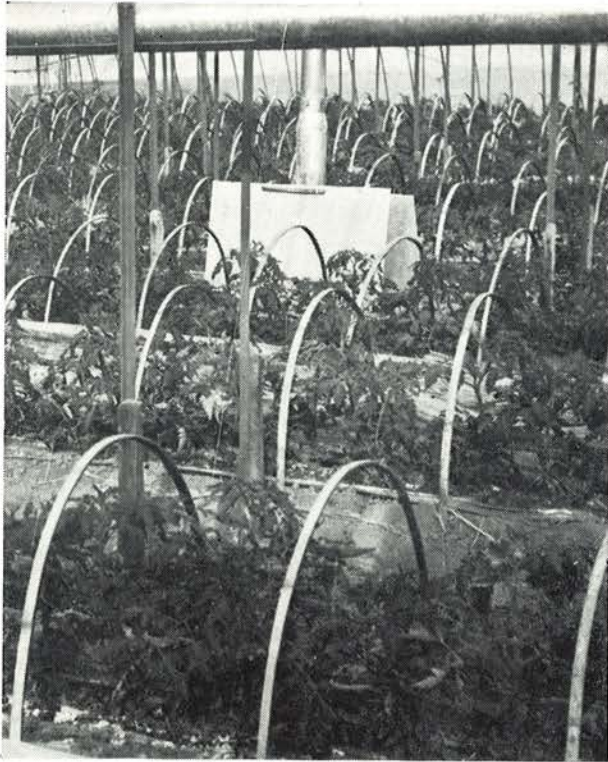
業種別	店舗数	規模別					常用労働者				年間販売額 千円
		1-2	3-4	5-9	10-19	20-29	家族	役員	常用労働者	計	
総数	111	69	28	11	3	—	168	25	108	301	149,380
食堂	12	6	2	4	—	—	14	9	18	41	25,088
料理割ぼう	2	1	—	—	1	—	1	1	10	12	12,368
西洋料理店	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
支那料理店	20	14	6	—	—	—	36	2	6	44	17,362
そばや	24	14	6	2	2	—	44	4	29	77	40,716
すしや	9	2	2	5	—	—	14	9	20	43	28,555
酒場	33	25	8	—	—	—	42	—	19	61	18,440
バー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
カフェー	3	2	1	—	—	—	5	—	1	6	786
サロン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
キャバレー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
喫茶店	8	5	3	—	—	—	12	—	5	17	6,065
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 1 店当り年間販売額

(昭 35. 7. 1 現在)



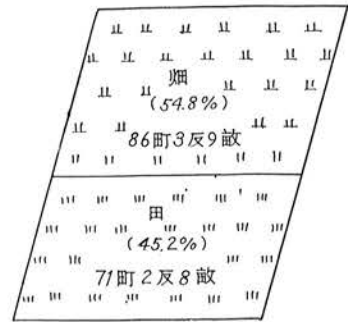
# 農 業



温 室 栽 培

## 耕 地 面 積 の 割 合

(昭 35. 2. 1 現 在)



## 農 産 物 種 類 別 農 家 数 耕 地 面 積 及 び 生 産 量

(昭 35. 2. 1 現 在)

種 別	農 家 数	耕 地 面 積	生 産 量
い ね 類	350	64。 2。 0	204,238 <sup>kg</sup>
麦 類	319	34。 1。 5	93,861
雑 穀 類	86	3。 4。 4	2,270
い 豆 類	369	22。 1。 3	243,710
豆 類	161	4。 1。 9	1,619
高 等 園 芸 類	1	。 1	—
野 菜 類	401	75。 8。 3	—
果 樹 類	1	。 4	—
工 業 作 物 類	50	7。 0	—
飼 料 用 作 物 類	5	5。 3	—
草 花 類	17	2。 6。 4	—



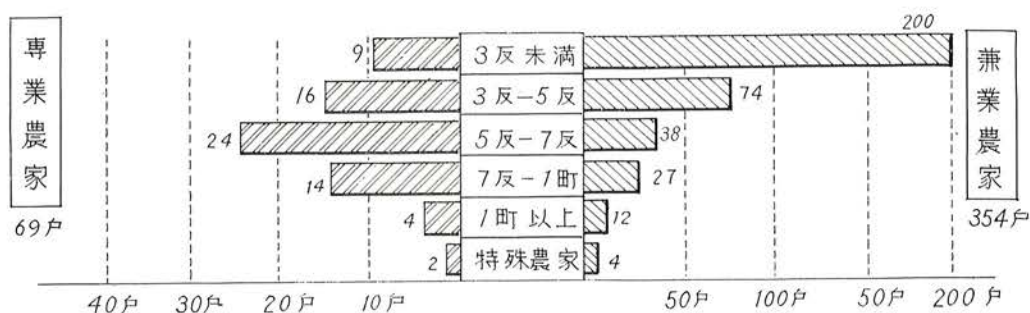
# 農用機械の所有形態

(昭 35. 2. 1 現在)

機 械 別	個 人 所 有		共 有	
	農 家 数	台 数	農 家 数	台 数
総 数	297	303	83	55
動力耕うん機農用トラクター	51	52	9	8
発 動 機	16	17	1	1
電 動 機	105	109	26	16
動 力 脱 穀 機	125	125	47	30

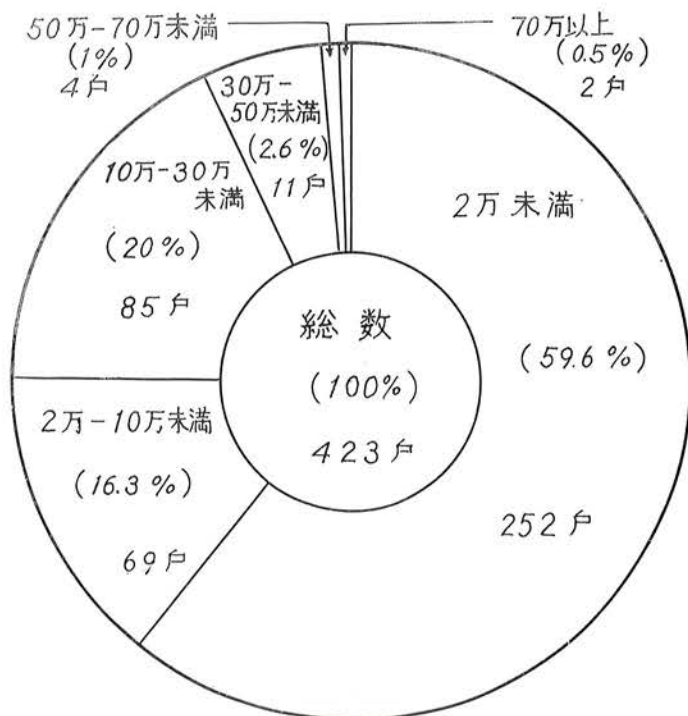
# 経営規模別農家数

(昭 35. 2. 1 現在)

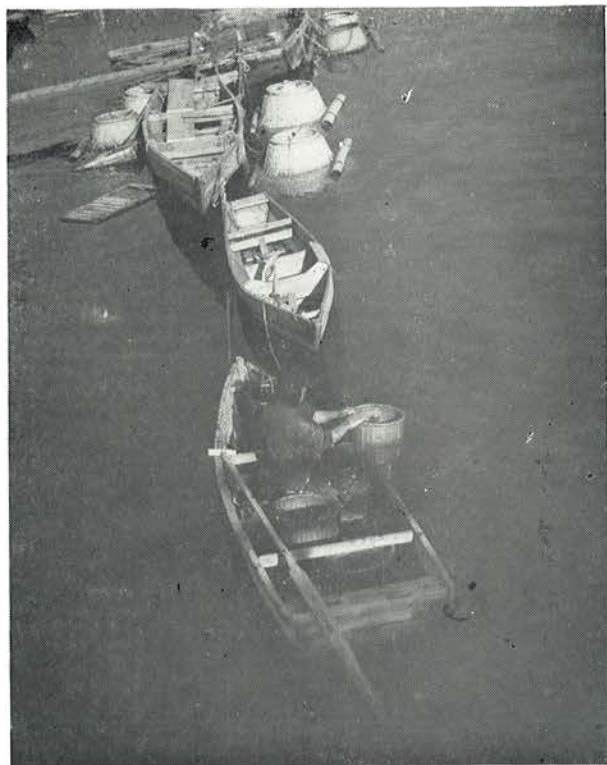


# 農産物販売額よりみた農家分類

(昭 35. 2. 1 現在)

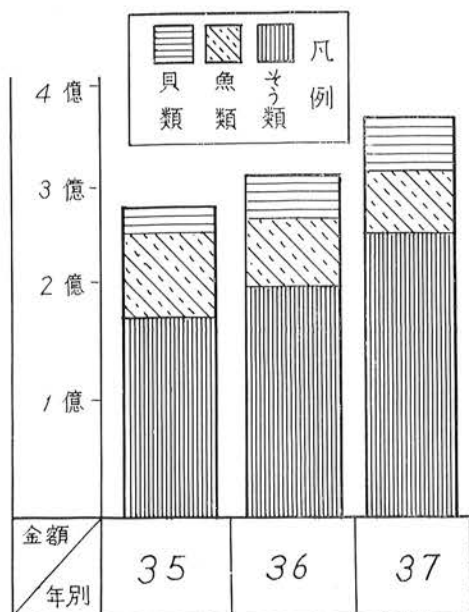


# 漁 業



の り 船

## 漁 獲 高 の 推 移



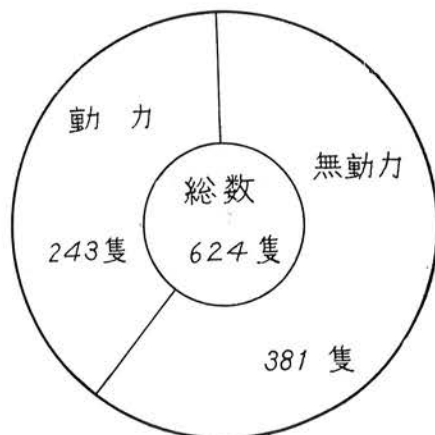
## 規 模 別 漁 家 従 業 者 数

(昭和 38.1.1 現在)

種 別		漁 家 数	従 業 者 数
規 模 別			人
富	1 人	—	—
	2 人—3 人	42	102
	4 人—5 人	18	80
	6 人 以 上	3	18
	計	63	200
岡	1 人	—	—
	2 人—3 人	116	308
	4 人—5 人	40	165
	6 人 以 上	—	—
	計	156	473
金	1 人	55	55
	2 人—3 人	45	94
	4 人—5 人	—	—
	6 人 以 上	—	—
	計	100	149
沢	計	100	149
合 計		319	822

## 種 別 漁 船 数

(昭和 38.1.1 現在)



## 観 光



### 称 名 寺

称名寺は1260年北条実時が、自分の別宅地に建てた寺である。

奈良大寺の末寺で真言禪宗、本尊は弥勒菩薩、鎌倉時代の中級寺院として栄えた。

本堂と釈迦堂、光明院、鐘楼、仁王門、新宮の7つが現存する堂塔である。

### 金 沢 文 庫

金沢文庫は称明寺の境内にあり北条実時によりつくられた。

古書7万冊古文書5千通を始め多数の学術参考書その他古美術品等が収められている。

現在の金沢文庫は昭和5年御大典記念事業の一つとして新しくつくられたものであり現在は県立図書館となっている。

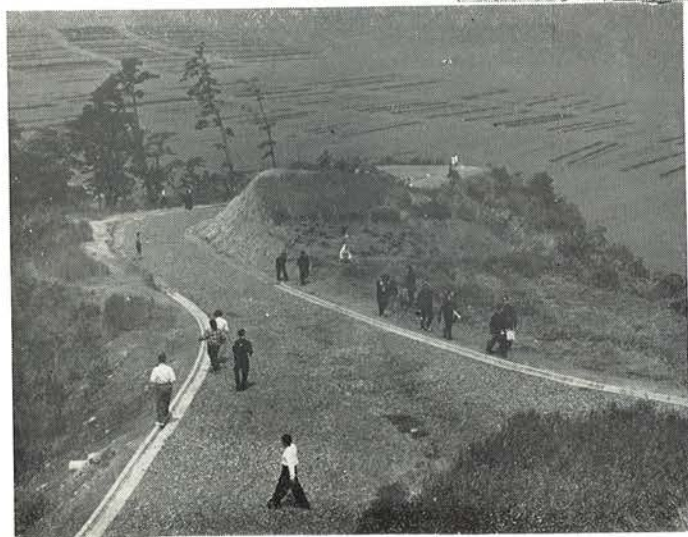


### 野 島 山

金沢の南端の海辺にたち足下に夏島乙舩の海岸を見下して眺望がすこぶる良い。

現在は横浜市の特別風致地区として開発されつつある。

頂上では貝塚が発見され先史時代の猫の頭骨が発見されたことがある。





## 乙 舩 海 岸

夏は海水浴で埋まるのに対し冬の乙舩海岸はのりひびが林立している。

やわらかい冬の陽差しをあびながらのりひびの間を小舟を操つて黙々とのりを採る漁夫の姿は冬の乙舩海岸の風物詩である。

## 春 の 六 国 峠

追分より天園を経て鎌倉に至るハイキングコースである。

なだらかな草のスロープの尽きる処杉の木立がうつそうと茂りやわらかな山なみを越えてはるかに野島、東京湾が、そして深く入江を抱く長浦湾の岬がかすむ



## 海 水 浴

根岸湾の埋立工事により金沢の海岸線一帯は横浜市に残された唯一の海水浴場である。

毎年、夏ともなれば海水浴客の増加が見込まれる。



## 花 火 大 会

毎年8月に平潟湾において恒例の花火大会が開催される。

当日は市内は勿論横須賀、逗子、鎌倉よりの観客も多く夜空を美しく色彩の数千発の打上げ仕かけの花火をみんなものと来遊するまことに夏の夜の一眼の清凉剤である。

## 瀬 戸 神 社

老木うつそうとして厳肅の気に満ち森林中にあり大山祇命を御神体と菅公座像を配祀した古社である。

文治元年四月八日源頼朝が逗州三島明神を勧請したものである。

徳川時代には朱印領百石を有した名社である。



公職者および団体役員

県 会 議 員

峯尾 恭人 自由民主党  
中島 義正 日本社会党

市 会 議 員

相川 藤兵衛 横浜市政同志会  
宇野 忠夫 横浜市政同志会  
森下 一男 自由民主党  
田村 耕三 日本社会党

選挙管理委員会

委員長 榎本市郎  
委員 小野島基博  
〃 鎌田金重治  
〃 長島清治

農 業 委 員 会

会長 鹿島源左エ門  
委員 石井直吉  
〃 大胡政次郎  
〃 小泉文治  
〃 相田 勇  
〃 斉田信太郎  
〃 山口藤助  
〃 長島与兵衛  
〃 青木宏之藏  
〃 田島新藏  
〃 福本忠七  
〃 小林顕一  
〃 相沢友吉

各種団体役員

金沢振興開発協議会長 小沢二郎  
金沢区商店連合会長 佐藤軍時  
金沢区瓦斯促進協議会長 米元完二  
金沢観光協会会長 小沢二郎  
金沢区社会福祉協議会長 一之瀬徳太郎  
金沢区造族会会長 加藤太市郎  
金沢みのり会長 小坂幾代  
区赤十字奉仕団委員長 山田道成  
金沢区婦人団体連絡会々長 永堀八重子  
金沢区民生委員協議会長 一之瀬徳太郎  
金沢区体育協会会長 松本源治  
金沢区体育指導委員等長 竹内竹治  
金沢区連絡協議会々長  
未帰還者留守家族長 加藤太市郎  
金沢区民生委員推薦委員会委員長 小沢二郎  
共同募金金沢区支部長 青木 巽  
金沢区赤十字運動推進委員 山田道成  
金沢区防犯協力会連合会長 高橋保之  
金沢漁業協同組合長 鈴木金太郎  
柴 漁業協同組合長 斉田平寿  
富岡漁業協同組合長 青木庄次郎  
国連協会横浜支部金沢分会長 山田道成  
富岡地区連合町内会長 佐野明光  
金沢地区第一連合町内会長 関 哲郎  
金沢地区第二連合町内会長 青木 巽  
六浦地区連合町内会長 米元完二  
南六浦地区連合町内会長 松野政吉  
釜利谷地区連合町内会長 小泉亀藏  
地区社会教育協力会 青木 巽  
地者委員 小林錠太郎  
金沢区公明選挙推進協議会長 相川藤兵衛  
金沢区保護司会長

## 区内の行政機関

### 県 の 機 関

長 浜 療 養 所	富 岡 町	2 2 2	竹 内 十 一 郎
横 浜 公 共 職 業 安 定 所 金 沢 出 張 所	寺 前 町	1 0	木 村 五 郎
金 沢 警 察 署	寺 前 町	3 8	高 橋 喜 曾 次
金 沢 文 庫	金 沢 町	2 0 9	熊 原 政 男
神 奈 川 県 立 工 業 試 験 所	富 岡 町	3.1 7 4	北 島 三 省
県 立 社 会 教 育 会 館	金 沢 町	1 4 2	上 田 地 図
県 立 富 岡 射 撃 場	富 岡 町	1.4 3 1	近 沢 敏 広

### 市 の 機 関

金 沢 区 役 所	町 屋 町	2 0	山 田 道 成
金 沢 保 健 所	金 沢 町	4 8	芝 本 静 夫
金 沢 消 防 署	谷 津 町	3	草 川 甚 一 郎
金 沢 土 木 出 張 所	町 屋 町	2 0	勇 善 光
金 沢 民 生 安 定 所	町 屋 町	2 0	飯 田 敬 治
金 沢 清 掃 出 張 所	町 屋 町	2 0	城 田 平 八
金 沢 塵 芥 処 理 場	朝 比 奈 町	1 5 1 — 1	北 島 一 彦
水 道 局 金 沢 詰 所	寺 前 町	8	—
金 沢 職 業 訓 練 所	釜 利 谷 町	4 4 3	白 川 為 成
金 沢 公 益 質 舗	六 浦 町	4.1 0 9	橋 本 里 志

### 通 信 機 関

磯 子 郵 便 局 金 沢 分 室	六 浦 町	4.8 4 7	三 浦 孝 三 郎
金 沢 郵 便 局	洲 崎 町	2 3	安 田 茂
富 岡 郵 便 局	富 岡 町	1.8 1 7	鹿 島 久 治
六 浦 郵 便 局	六 浦 町	6 8 1	小 林 備 保
六 浦 川 郵 便 局	六 浦 町	3.5 1 9	渡 辺 正 治
金 沢 文 庫 郵 便 局	寺 前 町	1 6	中 村 定 子
横 浜 金 沢 電 報 電 話 局	谷 津 町	3 4 6	渡 辺 弘

## あ と が き

区制施行15周年を祝して区勢概要を刊行しました。

本書は主として昭和37年度の統計資料をもとに集録しましたが資料の関係で、他年度によつたものもあり、又努めて図表写真等を用い訳り易くする積りでしたが、何分にも限られた日時、予算、その他の関係で仕上げました結果、不満足な点も少くありませんが、何卒御容赦願います。

終りに本書刊行に当り多くの貴重な資料を快よく御提供下さいました関係諸機関の御好意に対し深く謝意を表する次第です。

昭和 38 年 5 月 15 日 印刷  
昭和 38 年 5 月 15 日 発行

発行所	横浜市金沢区役所
編集兼発行 責任者	庶務課長 吉川 憲 治

	横浜市南区西仲町4-76
印刷所	大成堂印刷有限会社